

穴埋め (1 問 4 点合計 40 点)

答案用紙の空欄に書くこと。番号を間違えないように注意すること。

- [1] 個々の機械に対して、それらが一連のネットワークをなして連動している全体を機械 と呼ぶ。

設備

- [2] 生産過程を変革する技術革新がプロセスイノベーションと呼ばれるのに対して、新生産物を開発する技術革新は イノベーションと呼ばれる。

プロダクト

- [3] 労働する前に労働力の育成費用がかかる複雑労働の場合には労働力の (=基本給) 自体が高くなるのが特徴である。

価値

- [4] M&A のように既存の複数の企業の資本が自立性を失って結合することを資本の という。

集中

- [5] 産業構造が労働集約型から資本集約型に移るにつれて、資本構成は 化する。

高度

△深 (3 点)

- [6] 商業資本 (卸・小売など) を通さずに、産業資本が最終消費者に販売することを という。

直販

△直接販売 (2 点)

△直売 (2 点)

- [7] 法令によって市中銀行が預金額に対して要求されている現金準備の割合を 準備率と呼ぶ。

法定

- [8] 掛け売りも貸付も資本主義的なシステムを成り立たせる必然的な形態としては、主観的な信頼ではなく、客観的な に基づく。

信用

- [9] 【計算問題】もし前貸総不変資本 (C) が 780 億、一回転分の可変資本 (v) が 20 億、剰余価値率が 100%、資本の平均的な回転速度 (n) が 4 ならば、年間利潤率は %である。

10

- [10] 【計算問題】もし銀行の現金準備 (R) が 8 兆円、銀行制度の外にある現金通貨 (C) が 2 兆円、信用乗数が 10 であるならば、預金通貨 (D) は 円である。

98 兆

△98 (2 点)

論述 (1 問 20 点合計 60 点)

以下の問題の**すべて**に答えよ。答案用紙の余白に書くこと。順序は問わないが、どの問題に答えている

のか、必ず番号を書くこと。

[A] 資本主義的営利企業における労働時間の延長と労働強度の強化との関係について、具体例を挙げて説明せよ。

資本主義的営利企業は利潤最大化のために労働時間の延長と労働強度の強化とを同時に追求しようとする。しかし、ある点を超えると、労働時間の延長と労働強度の強化とは矛盾するようになる。それでも、追求しようとする、生産力の低下や労働災害、過労死・過労自殺などをもたらすようになる。
理論 (T) : 10 点 (両立・矛盾・結果)
例 (E) : 10 点

[B] 標準的な生活水準、および労働者一人あたりの標準的な労働時間は不変だと仮定する。シャツという必須生産物を生産する部門において、コストを削減する技術革新が生じて普及した結果として何が生じると予想されるのか、(1) シャツ業界のレベルと (2) 社会全体のレベルとに分けて説明せよ。

(1) シャツ業界のレベル：新技術の普及を通じて、シャツ業界全体で、生産力水準が上昇し、コストの削減によって、シャツの市場価値が革新的企業でのその企業内価値まで低下する。
(2) 社会全体のレベル：シャツが必須生産物をなす限りでは、シャツのこの市場価値の低下は労働力の価値の低下をもたらす。そうすると、労働力の価値が低下した分だけ、どの業界にとっても、剰余価値(利潤)が増大する。

シャツ業界のレベル (B) : 10 点

社会全体のレベル (A) : 10 点

[C] 現代社会における企業向け設備投資資金の長期貸付の特徴を、前近代的共同体における貸付と比較しつつ、具体例を挙げて説明せよ。

〔信用〕企業が企業として活動できている限りでは、利子付きで借入金を返済可能である。すなわち、この場合には、利子付きでの返済に信用がある。これに対して、消費者が消費目的のために借りる場合には、そもそも消費活動からは売り上げは上がらないし、ましてや利潤は期待されない。従って、消費者向け貸付はしばしば利子付きでの返済に対する信用の欠如を前提する。
〔利子：〕設備投資資金を借り入れる場合には、利子率は（この借入資本の）期待利潤率以下の低利にならざるをえない。これに対して、消費者向け貸付の場合には、借入需要には、期待利潤率のような合理的な基準がない。また、貸付供給にとっては、そもそもハイリスクである。したがって、比較的に高利の貸付にならざるをえない。

理論 (T) : 10 点

例 (E) : 10 点